

15 社会と向き合う～地域のオタスケに感謝して～

指導案

ねらい	親や学校だけでなく地域の方の関わりのなかで自分が成長していることに気づき、地域への感謝の伝え方を考える。
準備	5～6人のグループに分けておく。 ワークシート

時間	活動内容	留意点
5分	本時のねらいの確認 「地域の方との関わりの中で自分がどのように成長してきたか考えよう。」	◇今後、地域社会の一員として、次世代と関わっていくにあたり、これまで自分の成長を地域の方々に支えてもらっていたという意識を高める。
5分	ワークショップ [ワーク1] (ワークシート) ◆これまでに自分を助けてくれた(くれている)方のことを考え、記入する。 ・小学生のころ、登校中に転んでけがをした時、通学路の近くの家のおじいさんが手当てをしてくれた。	◇いろいろな場面があること、そこに関わっている人がどんなことをしてくれたかまで具体的に書けるとよいことをアドバイスする。 ◇その時、どんな気持ちだったかも合わせて考えるように助言する。
10分	◆グループ内で交流する。 ・中学の部活で、地域の方がコーチとして指導してくれた。	◇仲間の話をよく聞き、質問するなど、お互いの意見を尊重するように助言する。
10分	[ワーク2] (ワークシート) ◆助けてくれた方に感謝の気持ちをどう届けたかグループで話し合う。 ・いつも登下校を見守ってくれている方に、「ありがとうございます。」とあいさつした。 ・感謝していても、その気持ちを言葉にして伝えることは、できていなかった。	◇場面ごとに紹介してもよいし、自分が一番オタスケを受けたと思うことについて紹介し、交流しても良い。 ◇感謝の気持ちを届けたときの気持ち、相手の様子、届けられなかったエピソードなども話すように助言する。
10分	◆グループごとに発表する。	◇良い話、気になった話、意外だった話について話すよう助言し、価値づける。
10分	振り返り ◆振り返りをワークシートに記入する。 ・地域の多くの人に支えられて生活していることが分かった。言葉や行動で感謝の気持ちを伝えられるようにしたい。	◇時間によっては、抽出グループでも可とする。 ◇本時に改めて気付いたオタスケや、感謝の気持ちの届け方について考えるように助言する。 ◇地域社会人としてどんなことができそうか考えるように助言する。

<親になったときに生かしてほしいこと>

自分の成長を地域の方々に支えてもらってきたという意識をもち、地域社会の一員として、積極的に地域に貢献する人になってほしい。

幼いころから今に至るまでの生活の中で、家庭・学校だけでなく、地域の方との関わり、支援を受けた経験があるのではないのでしょうか。そんな方々に感謝の気持ちを込めて振り返りたいと思います。

ワーク1

これまでに、あなたをオタスケしてくれた（くれている）方を考えてみましょう。

どんな場面で	どんなひとが	どんなことを
登校の時 下校の時		
学校行事や 部活やスポーツ、 習い事で		
公民館や子ども会、 自治会、地域行事で		
その他		

ワーク2

成長をオタスケしてくれた方に感謝の気持ちをどう届けたか（届けるか）話し合みましょう。

《今日を振り返って》